

平成26年度 学校評価コメント

質問事項を、肯定的な評価（そう思う、大体そう思う）と否定的な評価（あまりそう思わない、そう思わない）に2分して傾向を見た。

【生徒】

- 昨年度に続き、ほぼすべての項目で肯定的な評価が増加している。
(平成24年度は平成23年度と比べて全体的に肯定的な評価が減少していた。)
- 特に10%を超えて肯定的な評価が増加したのが「服装・頭髪がしっかりしている」で、服装・頭髪をきちんとしていることを自信にしている生徒の増加が伺える。
- 肯定的な意見が80%を超えているものは「きちんとした授業態度で授業を受けている」「挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている」「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」「進路情報の提供が十分に行われている」「相談に応じてくれる体制ができて」「部活動は活発に行われている」「施設や設備は整備されている」「災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている」である。
- 肯定的な意見が60%に満たないものは「マイスクール宣言をよく理解している」「地域や伝統に根差した特色ある学校づくりに取り組んでいる」である。
- 県平均(H25)より高いのは、進路指導、教育相談、部活動、いじめ問題に関する項目である。

【保護者】

- 昨年度とほぼ同様の傾向である。
- 「挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている」「服装・頭髪がしっかりしている」「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」「有意義な学校行事がある」「生徒会活動は活発に行われている」「部活動は活発に行われている」「文書・事務連絡はわかりやすい」「電話・窓口の対応は丁寧である」「学校生活は充実している」「入学させて良かった」は肯定的な意見が80%を超え、生徒の評価よりもやや多い傾向にある。
- 肯定的な意見が60%に満たないものは「マイスクール宣言を知っている」「校訓を知っている」「いじめ問題に対する取組が共有されている」である。
- 県平均(H25)より高いのは生徒指導に関する項目で、他の項目は県平均よりやや低い値にある。

【教職員】

- 昨年度とほぼ同様の傾向である。
- 肯定的な意見が10%を超えて増加したものは「黒高正は社会のルールを守って生活している」である。
- 肯定的な意見が60%に満たないものは「校訓に触れて指導している」「校内の情報化は、教育活動や事務処理・成績処理等に有効に機能している」である。
- 生徒指導に関する項目では、昨年度よりやや低い値となっている。
- 教職員の自己評価は生徒、保護者の自己評価より高い傾向があり、特に、学習指導、生徒会活動、学校行事、特色ある学校づくり、いじめ問題に関する項目に開きが見られる。

【全体を通して】

- 生徒、保護者、教職員に共通して高いのは、生徒指導、進路指導、部活動に関する項目で、効果的な教育活動につながっている。
- 学習指導については、生徒の自己評価は向上しているが、教職員の取組が効果的に感じられるよう、引続き研究を続けて行く必要がある。
- 「授業をきちんとした態度で受けている」では生徒では肯定的な意見が多いが、教員は高い値になっていない。
- 特色ある学校づくりについて、本校で行われている特色を生徒に更にアピールし、自己肯定感の向上につなげる契機としたい。「マイスクール宣言の理解」などのさらに進めたい。
- 「いじめに対する取り組み」は、生徒、保護者ともに昨年度より高い値となっており、生徒については県平均より高く、徐々に取組への理解が進んでいる。
- 生徒指導や進路指導での効果的な取組を活かし、生徒の自信や保護者の理解を高めるとともに、効果的な学習指導へとつなげて行きたい。